

「何て呼びたい？呼ばれたい？」

配偶者・パートナーのことをほかの人に伝える時、何て呼んでいますか？
夫・妻？ 主人？ 旦那？ ママ・パパ？ なまえ？ それぞれの由来を調べてみました。

奥さん

公家や大名の正妻など身分ある人の妻が建物の奥の方にいたことから「奥+様」と言われていました。奥様がくれた言葉のようです。

主人

中国語で「一家の主（あるじ）」が語源とされ、上下関係・主従関係の意味があるようです。

夫

「男人（をひと）」から変化して「おっと」になった言葉とされ、妻から見た配偶者を指しています。

妻

もともと「つま」は男女にかかわらず配偶者や恋人を指していたようです。「夫」と書いて「つま」とも読んでいました。

家内

明治以降、家の外で働くようになった男性が、配偶者を「家の中にいる人」という意味で「家内」と呼ぶようになったとのこと。

旦那

「パトロン（支援者）」のような意味合いで使用されるようになり、使用人が主人を、商人が客を、妻が夫を呼ぶときの敬称となったようです。

参考文献：日本国語大辞典・日本語源広辞典・日本語源大辞典



～表現の自由を尊重しつつ～

男女共同参画の視点でとらえる望ましい表現例

見直したい言葉	望ましい表現	見直し理由
主人	夫	男性が主で女性が補助的な役割といったイメージを形成するため
奥さん	妻	
父兄	保護者	男性中心の言葉のため
サラリーマン・ビジネスマン OL・キャリアウーマン	会社員	男女どちらかを表す言葉であり、性別にかかわらず表現することが望ましいため
女子アナ	アナウンサー	性別を強調したり、特別視することになるため
女医	医師	
女子行員	社員・会社員	

※法律の規定等により、使用する場合もあります。 参考資料：「表現ガイド」朝霞市発行



Point

「対等」な言葉で表現していますか？

日頃何気なく使っている言葉ですが、男性を中心としてきた社会背景から、言葉によっては対等ではない主従関係の意味や、家の中を守る人という意味などいろいろな由来があるようです。言葉にする表現は、自由に選択できる反面、相手を傷つけてしまう場合もあることにも注意が必要です。

「表現」が「意識形成」に果たす役割は大きいため、相手を思いやり、誰もが共感できる表現を身に付けたいものです。

※男女平等推進情報「そよかぜ」は、公募市民の企画・編集協力員と協働し作成しています。

問／それいゆぶらざ(女性センター) ☎463-2697